

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	toiro藤沢			
○保護者評価実施期間	2025年1月12日		～	2025年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	69	(回答者数)	42
○従業者評価実施期間	2025年1月12日		～	2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月19日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・スタッフ全員が児童のことを深く理解した上で支援していくことを意識している。	・昼礼と退勤前の振り返りを行い児童の共有をスタッフ間で実施している。 ・小さなことも保護者様に共有し、保護者様の安心感と信頼感を獲得するように取り組んでいる。	・児童一人一人の特性に合わせて、できることを増やしていきたい、生活の幅を広げていきたい。 ・今まで体験したことない遊びや経験を提供し、興味関心の幅を広げていきたい。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流の機会が少ない。	・地域の他事業所との顔合わせや関わる機会がない。	・自立支援協議会・地域などの集まりがあれば参加し、他事業所の方と関わる機会を調整する。
2	・父母会や保護者同士の交流機会が提供できていない。	・保護者からの要望がなく、必要性に迫られていない。	・保護者に父母会等の実施に関するアンケートを行う。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		toiro藤沢			公表日		2025年 3月 10日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8			7
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6	9	定員人数に対しては適切である。	欠勤の職員が出る、不足することもある。送迎対応している範囲が広く、職員数が少ないと感じることがある。 法令上の配置は満たしているが、より手厚く支援するために職員配置を見直してほしい。 特に支援を必要としている児童がいる教室は、職員が足りないと感じることがある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	6	各教室、児童の特性に合わせて都度工夫を凝らしている。	適宜最適な環境が異なることがあるため、絶え間なく改善に努めていく。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	5	常に最適な環境で過ごせるように改善に努めている。	不十分な箇所もまだあるため、引き続き改善に努めていく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	13	2	相談室があり、気持ちが崩れた時のクールダウンやじっくりと話をしたいと児童が希望する時に使用することができる。	児童の年齢層が高くなるにつれ、パーソナルスペースが確保できるように調整が必要だと思われ、今後相談室だけでは不足する可能性が考えられる。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	11	4	児童様の様子や直近での出来事を踏まえ、振り返りとともに今後の小さな目標を設定している。	数人の職員同士で話をしているケースもあるが、参画していない職員もいるため改善に努めます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12	3				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	2	様々な意見を聞くことができる環境・事業所責任者との面談等で意見を述べる機会がある。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	7				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	1	会社主体の研修・外部講師による研修などが挙げられる。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	14	1				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14	1	保護者様から発達検査の内容を共有していただくため、児童の最新の情報を取得することができている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14	1				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	13	2	職員一名が立案後にチームで見直しのMTGを行っている。	一日毎のイベントについては、各担当者が内容を決めて実施している。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	13	2	児童の特性を配慮し、新しいイベント内容や経験を積めるように工夫を行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	12	3	集団活動に参加できるように重きを置いた支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	2	昼礼を実施している。	できている日が多いが、出勤時間の兼ね合い等で時間が取れずに連絡ツールでの共有になってしまう日もある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	6	定例業務後に今日の振り返りを実施している。	帰りの送迎により、事業所へ戻るのが遅くなってしまった場合は翌日のMTG時に共有をするようにしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	1	支援記録システムを導入し、記録を残している。また、小さなことでも逐一連絡ツールを用いて情報共有を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	13	2	チームで力を入れて取り組んでいる。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	11	4	地域との関わりが薄いため、関わるの場を多くしていきたい。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	13	2	コミュニケーションや発語が苦手であっても絵カード等で情報の伝達・児童の意思決定を重要視している。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	3		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	6		地域との連携が不足していると感じるため、今後強化していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	11	4		保護者様と連絡が取れず、やむを得ず学校へ架電するもの、個人情報の観点から下校時間が分からずに困るケースが何度か発生している。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	12		相談支援事業所経由で情報共有を行うことはあるが、保育所等と直接、情報共有を行う機会はほぼない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	10		現時点で該当者がまだいないため。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	5	地域ではないが、社内のスーパーバイザーより助言をいただく機会があった。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	11		大体的には行っていない。外出先の公園等で交流することに留まっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	6	事業所内の代表者が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	12			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12	3		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13	2	モニタリング面談時、送迎時等に保護者様の意向を確認しながら支援を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	15			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15			

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	13	交流会を実施することを検討はしたが、実際に開催は行うことが叶わなかった。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	13	2	迅速な対応はできている。	迅速な対応はできているが、対応の体制整備は改善の余地有り。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15		当日の様子や共有事項は送迎時に申し送りを行っている。また、保護者様のメッセージ内容を職員へ共有を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	10		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	13	2		マニュアルを策定はしているものの、保護者様への周知度合いは改善すべき。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	13	2		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15		訓練前に共有を行い、共通認識を持って取り組んでいる。また、送迎車・訓練室内にもマニュアルを用意し、スムーズに対応できるように整備している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	13	2		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	6		対応済みであっても結果として対応が不十分な場合もあるため、都度改善が必要。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12	3		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	6	全職員に行き渡るよう共有していく。	共有が不十分なことがある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15		外部講師による研修等もあるが、引き続き受講して支援時に注視していく。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	15		保護者様の事前の了承を得ているが、児童の様態を考慮し、必要でない時は実施を控えている。		